竹下復興大臣記者会見録

(『究極のお土産』フォーラム)

(平成27年9月14日(月) 18:56～19:00 於) 都市センターホテル)

1. 発言要旨

第2回目になりますけれども、今回は東北に限ってまさに世界に通用する究極のお土産というコンテストを盛大に開催していただきましたことを心から感謝を申し上げます。

ご覧になってお判りになるように、主催の一人は復興庁でございますが、我々が口をはさむ余地は何もない。まさに口が肥え、目が肥え、地元のこと精通した皆さん方がガチンコ勝負で今日も素晴らしい11の商品を選んでいただきました。こうした形を通じまして、多分受賞された方はものすごい自信になったと思います。

そして、先ほど挨拶でもお話ししましたように、地元でまず輝いてもらう、そしてそれを全国に今日も多くのパイヤーの皆さん方、それからネットワークを持っているメディアの皆さん方もお見えになっておりますので、そうした皆さん方と力を合わせることによって、地元だけではなくて、全国へ、世界へ、必ず飛躍する商品が出てくると確信をいたしております。

今日は、こういう会をいい形で開催されましたことを心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

2. 質疑応答

(問) 受賞作品はもちろんですけれども、それ以外、出展された方々がこれだけいらっしゃると思いますので、どのように活用していかれますか。

(答) 受賞したのは確かに11の作品であります。私も全部はとても食べられませんでした。10ぐらいあそこの列を食べてまいりました。「面白いな」と思うものが幾つもありました。「初めての味だな」と思うものも幾つもありました。約500出てきて、その中から一次審査をクリアした、たしか112点と言っておりましたが、そういうクリアしたレベルというのが非常に高い。審査委員長もおっしゃっておいりましたように、私はそれぞれの地元では抜きに出た存在だと思えます。地元を引っ張っていける力を持っている商品たちではないかなと思えます。これもあわせて期待しております。

(問) 新しい東北と復興庁は銘打っていますけれども、こういう新しい商品、高い付加価値、産業が東北に生まれてくるということが復興の中でどういうふうに関わってくるのか、どういう価値を持つのかはどういうふうを考えていらっしゃいますか。

(答) いっぱいいいものは地元あるんです。被災地だけではなくて東北にあるんですが、地元の人にとってはもう当たり前、毎日食べている、毎日見ている。だけど、全国の目から見たら、あるいは東京やニューヨークの消費者から見たら、「これは何だ」というものが必ずあります。それはこういうコン

テストを通じて、地元の皆さん方に地元をもう一回見直してもらうことによって、浮き出てくるものと、このように思います。そして、それをメディアの皆さん方やあるいはバイヤーの皆さん方のプロの目を通して、もう一回厳選するというのがこういうコンテストで、そのことによってものすごい自信が出てくるんです。やはり商売をやるにも、おどおどしてやるよりも、「俺はここまで出たんだ」と、「約500点の中から112点に少なくとも選ばれて出てきた」という自信に裏打ちされた商売というのは、地域の活性化にもものすごく役立つと思います。

今、一番必要なのは、元気にすること。元気にするためにはいろいろな要素がありますが、やはり商売がうまくいくというのは元気になる一つの大きな要素だと思います。ぜひ、頑張ってもらいたいと思います。

(以 上)